



令和8年度北海道旭川盲学校第1回学校運営協議会を7月10日（金）に次のとおり開催しました。

- (1) 令和8年度の学校経営方針及びグランドデザインについて
- (2) 本校の教育活動について
- (3) 授業参観
- (4) 今後のコミュニティ・スクールについて（熟議）

本協議会委員長の水上様からご挨拶をいただいたあと、学校長からの説明を行いました。また、委員の皆様との熟議を行い、今後のコミュニティ・スクールについて幼児児童生徒、保護者、地域の方と一緒にできる教育活動について情報共有を行いました。



<委員の皆様から>

- ・町内会で手品や変面（お面が次々と変わる伝統芸能）が非常に上手な地域の方にステージに立っていただき、子どもから大人、職員まで大好評だった。スケジュール調整のため、1～2ヶ月前には計画を立ててご相談させてほしい。その方は本当に手品が上手で、子どもたちも心から喜んでいたので、あの形のまま継続できれば一番良いと思う。
- ・「子ども農業体験塾」を担当時、小学3～4年生が半年かけて農家のもとに通う取り組みで、北海道教育大学の学生（未来の先生を目指す若者たち）がボランティアとして子どもたちのグループに入り、面倒を見てくれていた。非常に良い取り組みだったと感じている。
今年度は、第1回の授業で「種もみ」を植える段階から体験させてもらい、現在はバケツを使って田植えをする体験へと学習が進んでいる。
- ・出生数の減少に伴い、盲学校の生徒数が減っている現状は難しい課題だと思う。しかし、視覚障害のあるお子さんは数が少なくても必ずどこかのコミュニティに存在するため、視覚障害教育を守ることは極めて重要である。今日の授業参観でも感じたが、現代はメディアや音声入力を通じて手軽に音楽や活動を取り入れられる時代になった。このようにICTを上手に使いこなす力を育てる場が、今後さらに必要になると感じる。
- ・障害の様子は一人一人異なるが、それぞれの強みや力を伸ばしていくことが大切である。また、地域の学校同士の交流も非常に重要であるため、少しずつでも進めていただきたい。
- ・小学部になり、学習内容が変わってきたと感じる。幼稚部と比べ、現在は常にジレット（姿勢保持具など）を着用して過ごせたり、PCウォーカー（歩行器）で動き回れるようになったりしたことが嬉しい。先生が付きっきりで熱心に指導してくださるおかげで、家庭でも活発に動き、リハビリでも1時間座って活動できるようになった。昨年度、学級にお友達が増えたことで言葉も大きく伸びた。先生方は大変なことも多いと思うが、他校との交流など、子ども同士の関わりを大切に活動を継続してほしい。「盲学校の存在」をもっと周囲の人たちに知ってもらえたら嬉しい。

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの学びや体験活動の充実を目指し実現可能な取組をひとつひとつ進めてまいります。今年度につきましても、ご協力の程よろしくお願いいたします。